

高等学校看護科採点基準

4枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
1	健康に関する事象を当事者の考えや状況、疾病や障害とその治療等が生活に与える影響に着目して捉え、当事者による自己管理を目指して、適切かつ効果的な看護と関連付けることを意味している。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	10	
2	① 腎杯		各3×6	
	② 腎盂	腎盤 もよい。		
	③ 腎柱			
	④ 腎錐体	髓質 もよい。		
	⑤ 皮質			
	⑥ 腎乳頭			
	2	① (イ)		各3×6
		② (ア)		
		③ (カ)		
		④ (ウ)		
		⑤ (エ)		
		⑥ (オ)		
	3	ア 腹圧性尿失禁		各3×3
		イ 機能性尿失禁	急迫性尿失禁 もよい。	
		ウ 切迫性尿失禁		
	3	① ビタミンA		各3×6
		② ビタミンD		
		③ ビタミンE		
④ ビタミンB ₁				
⑤ 葉酸				
⑥ ビタミンC				

高等学校看護科採点基準

4枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
4	① 肉体的	身体的 もよい。	各2×4	
	② 精神的			
	③ 社会的			
	④ 疾病			
	2	平均寿命が「あと何年生きられるか」という生存の量のみを問題にするのに対し、健康寿命は「いかに自立して健康に暮らせるか」という生活の質も考慮した指標である。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	6
3	① 健康格差		各2×5	
	② 生活習慣病			
	③ 社会生活			
	④ 整備			
	⑤ 口腔			
5	1 ア		3	
	2	① 赤色		各2×2
		② 黄色		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・使い捨てのガウン（エプロン）、マスクと手袋を着用する。 ・処理の前後に手指衛生を十分に行う。 ・ウイルスが飛び散らないように吐物をペーパータオル等で静かに拭き取り、床を次亜塩素酸ナトリウムで消毒後、水拭きをする。 ・吐物が飛散した恐れがある周囲の床及び壁面も吐物の付着した床と同様に次亜塩素酸ナトリウムで消毒後、水拭きをする。 ・拭き取りに使用したペーパータオル等は、ビニール袋に密閉して廃棄する。 ・患者の衣類が汚れている場合は着替えさせ、汚れた衣類はビニール袋に入れた後、適切に処理する。 ・空気の流れに注意しながら、十分に換気を行う。 ・患者の状態を確認し、次の嘔吐に備える。 	5つ書かれていればよい。内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各3×5	

高等学校看護科採点基準

4枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
6	1	ウ, エ	全部合っているものだけを正答とする。	6
	2	① D		各2×4
		② C		
		③ A		
		④ E		
	3	① 初	順序は問わない。	各3×3
		② 白内障		
		③ 先天性心疾患		
		④ 難聴		
	4	心拍数	順序は問わない。	各3×5
		呼吸		
		筋緊張		
		刺激に対する反応		
		皮膚色		
	7	1	・下肢の色調（暗赤色）の変化 ・下肢の腫脹 ・下肢の発赤 ・下肢の熱感 ・下肢の疼痛 ・下肢の浮腫 ・ホーマンズ徴候	3つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。
2		看護 腓骨頭部を免荷するとともに、良肢位（外転・回旋中間位）を保持し、患肢が外側に倒れないようにする。	看護と理由がともに合っているものだけを正答とする。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	7
理由 Aさんは「足の親指がしびれる。」と訴えていることから腓骨神経麻痺の徴候が出現しているため。				

43

38

高等学校看護科採点基準

4枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点
7	3	視点	理由	4つ書かれていればよい。 視点と理由がともに合っているものだけを正答とする。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 7 × 4
		発達段階の視点として、理解力に応じた話し方、実演や写真、イラスト等が考えられているか。	Aさんは老年期であり、視力、聴力、体力、認知力などが低下する傾向があるため。		
		脱臼予防の視点として、日常生活動作による脱臼予防の内容が含まれているか。	Aさんは自転車で茶道教室に通っていることから、日常生活の中で禁忌肢位となることが多いと考えられるため。		
		再発防止の視点として、患肢だけでなく、両下肢の関節可動域運動と筋力増強運動を継続して行える内容が含まれているか。	Aさんは手術後の安静期間により筋力が低下している。関節組織の回復を促し、再転倒を防ぐためには両下肢の運動訓練の継続が必要であるため。		
		骨粗鬆症予防の視点として、指示された内服薬を継続すること及び骨粗鬆症予防に気付かせる内容が含まれているか。	Aさんは68歳の女性であることから、閉経後の女性ホルモン低下による骨粗鬆症に対して内服薬が処方されることが考えられるため。		
		定期受診の必要性の視点として、退院後も経過観察が必要であること及び外来通院の必要性についての内容が含まれているか。	Aさんは人工骨頭置換術を行っていることから、人工物を挿入したことで感染などのトラブルを生じる可能性があり、定期受診が重要であるため。		
		社会資源の活用の視点として、退院後の支援として介護保険申請の手続きについての内容が含まれているか。	Aさんは68歳であり、要介護認定を受けることができる年齢である。認定により、介護予防や生活支援のためのサービスを受けられるため。		
		家族指導の視点として、指導に家族を参加させることの意義を理解しているか。	Aさんは夫と二人暮らしであり、夫の協力が必要であるため。		